

～今、市民の森では！～



昆虫もたくさん載っています

作成:NPO 法人 ハヶ岳森林文化の会 森林観察学習部会
(Tel: 0266-75-1772 Mail: shinrin_bunka@yahoo.co.jp)
掲示許可:茅野市 環境課 環境保全係

毎年、一般募集して結成した月例観察会メンバーにより、月一回の月例観察会を行っています。そのメンバーから市民の森を散策される皆さんへ、メッセージをお届けします。市民の森の現在の様子(咲いている花、飛んでいる蝶など)をお伝えしますので、ご参考に、気持ちの良い散策をお楽しみください。月例観察会は、1回参加も受け付けております。お問い合わせは 75-1772。

茅野市 市民の森ガイドブック「市民の森に集う」(新書版144ページ)は茅野市役所 環境課 環境保全係で無料配布しております。是非、散策のお供に！

台風後の雨で座学 (悦)

夜中に台風が通り過ぎましたが朝は雨。フィールドでの観察は諦め、座学に切り替えました。台風の影響の強い雨でしたが、スタッフを含め16名が集まりました。

講師はハヶ岳総合博物館市民研究員キノコ班講師の小山明人さんです。

まずは、スタッフが朝採集してきた13種のキノコ、講師がお持ちの1種のキノコの解説から始まりました。それぞれのキノコを見ながら、構造、胞子の作り方、生活型(腐生、共生、寄生)などの説明に、質問続出で日頃の疑問が解消しただけでなく、食毒だけでないキノコの生態を知ることができました。フィールドでの観察以上に盛り上がった座学でした。



キノコの話 (口)

○冬虫夏草(寄生菌)の話題から、寄生菌は健康体を宿主として寄生するらしい、寄生されるとトンボ、アリはより高見を目指して登り、トンボは尻尾(腹長)をしっかりと伸ばし止まり、アリは脚を踏ん張って息絶える。そこから寄生菌の胞子はなるべく広範囲に降り注ぐ。

したたかに子孫を残す戦法だと知りました。さらに鳥などに食べられて糞に含まれてさらに遠くに移動するのかなと、想像が膨らみます。

○キノコ発生情報

下見の時にはあまりキノコをみかけませんでしたが、外気温が春は21度を越え、秋は18度以下になり三ヶ月過ぎるとキノコは出だすとのこと。

これは有力情報、とすると市民の森は9月23日くらいからキノコが出始めるのかな。

座学の参考キノコ e



ベニタケ属の一種

シロヌメリイグチ

オオキツネタケ

記号の説明:

- ①xx:ガイドブック「市民の森に集う」xxページ参照
- ②xx:ガイドブック2「森を楽しむ」xxページ参照

ガイドブック2「森を楽しむ」は、2017年3月に発行し、只今、300円で販売中。

《取扱所》 茅野市尖石縄文考古館
茅野市北山 カフェ 午後の森
《問合せ》 NPO 法人 ハヶ岳森林文化の会
☎: 0266- 75-1772

秋の気配 (洋)

キノコについて無知な自分には講義のレベルは高かった。

ですが、地球と菌類との関連について学ぶ切っ掛けとなった。地球の危機をキノコが救ってきたらしい。また、菌類(キノコ)は腐生菌と菌根菌とに分けられるとのこと。

さらに、昆虫寄生の菌類が存在するようだ。アリに寄生したタイワンアリタケの標本を見せて頂いた。冬虫夏草という菌の一種だそう。アリは操られた後、死んでしまう。そして、キノコ(子実体)が生える。そのキノコが高級なサプリメントになっていることを知った。

9月に会った虫 (口)



シラキトビナナフシ



ハネナガウンカの仲間



ネキトンボ



アキアカネ

9月に会ったむし達(悦)

- 🦋 カラスアゲハの仲間②109
- 🦋 ジヤノメチョウ②116
- 🦋 オニヤンマ②127
- 🦋 オオルリボシヤンマ♂
- 🦋 シオカラトンボ♂ ♀②128
- 🦋 アカネの仲間
- 🦋 ツノアオカメムシ②130
- 🦋 ハネナガウンカの仲間
- 🦋 蟻地獄(カゲロウの仲間の幼虫)
- 🦋 クサギリ

9月に観察した花 (悦)

- 🌸 ダイコンソウ①86
- 🌸 キツネノボタン①87
- 🌸 オオハンゴンソウ②90
- 🌸 キンミズヒキ①101
- 🌸 アカネ②91
- 🌸 イストウバナ②89
- 🌸 ゲンノショウコ ①100
- 🌸 ヒメジョオン②86
- 🌸 アケボノソウ①111
- 🌸 ツリフネソウ①113
- 🌸 ヤマハギ②95
- 🌸 クズ②90
- 🌸 ミズヒキ①103
- 🌸 ヌスビトハギ①107
- 🌸 ヨツバハギ②94
- 🌸 ツククサ①97
- 🌸 ヤブマメ②93
- 🌸 ヤマハッカ①105

9月に観察した果実 (悦)

- ウワミズザクラ①70
- キミズミ①71
- ミツバウツギ①74
- キブシ①67
- アブラチャン①66
- サワフタギ①74
- クサギ①100
- クリ①123

タデ科の植物

春には、カキドオシ、ムラサキサギゴケなどで覆われた地面も、秋にはタデ科の植物が沢山。季節により、植物も交代します。

ミズヒキ GB①103



イヌタデ GB①103



ハナタデ



ミソソバ GB①104



アキノウナギツカミ GB①104



タニソバ



ツリフネソウ(釣船草)の観察ポイント GB①113

今の季節、市民の森に限らずどこでも、ツリフネソウが観察できます。ツリフネソウの巧みな戦略を観てみましょう。

- ①雌しべ、雄しべの位置 ②距(蜜がある場所) ③タネの飛ばし方



①ツリフネソウは、5本の雄しべが合着し、その中に雌しべが包み込まれていますが、自家受粉を避けるために、雄しべが先に花粉を出し、役目を終えた後から雌しべの柱頭が出てきます。雄性先熟(説明ゲンノショウコ参照)

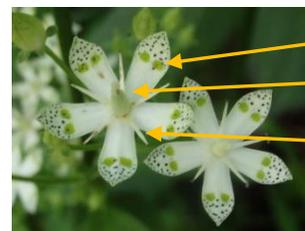
②ツリフネソウは虫媒花で、長く巻いた距の奥に蜜を用意し、口吻が長いトラマルハナバチ等の送粉者呼び、背中に花粉を付けて運んでもらいます。

しかし、長い口吻を持たないクマバチなどが、花の横に穴を開けて、蜜を横取りしてしまう(盗蜜)こともあります。

③タネを包む外皮が丸まる反動で遠くまでタネを飛ばします。ルートの銀色の蓋の裏の面が作られたそうです。

アケボノソウ(曙草)の戦略

アケボノソウの蜜腺は、花弁の先のこんなところにあります。花は、虫に花粉を他株に運んでもらうために、蜜を用意し虫を呼びます。アケボノソウは、なぜこんなところに蜜腺を用意しているのでしょうか。一つの推論を、GB②35に載せています。色々、推理してみましょう!



蜜腺

雌しべ

雄しべ

カツラ(桂)の香 GB①91

カツラの木に近づいてくると、甘い香りがしてきます。



カツラ甘い匂いの主成分はマルトールで、砂糖を含む菓子等の製造過程でも生成される物質です。キャラメルのような匂いと称されます。「香りが出る=香出(かづ)る」が名前の由来という説もあります。

新たな視点

今年の秋の観察会は講師に信州大学 理学部 特任講師 藤山静雄氏をお招きして、出前講座「面白い昆虫の話」をフィールド版として実施して頂きました。日頃見慣れたものも、違った視点で見ることができ、また、学びがありました。

身体の違いによる活動の違い

トンボの翅は4枚で、方向転換、ホバリング、緩やかなランディングが可能で、空中で飛ぶ虫を捉えるのに適している。空中の虫を捉えるため、眼も複眼で視力も高い。

カブトムシは、身体を覆っている堅い翅は飛ぶときには開くだけで、中にある翅2枚で飛ぶので、方向転換などは難しい。トンボに比べて眼も悪く、緩やかなランディングはできず、ぶつかって停まる。



蟻地獄(クサカゲロウの仲間の幼虫)は、前進は出来ず後進のみ。すり鉢の下で獲物を待ち、落ちてきた虫をバックで引きずり込むのに適している。

池の水質 GB①12



2008年夏に市民の森を創る会で調査の結果、植物性プランクトンの一種、渦鞭毛藻のツノモが多く見られ、これが濁りの原因をなしているようだ。とのことでした。しかし、講師から、新たな視点が提示。「池が濁っているのは、池の底の落ち葉の上に泥が積もっているのが見えるので、ゴルフ場開発による土壌の浅さが、ろ過できずにドロ粒子を含んだ水が池に流れ込んでいるせいではないか? 一見、開発後に緑が戻ってきたように見えるが、まだまだ土壌が深くなっていない。」